

研究機関：広島大学

研究課題名	CT perfusion による脳腫瘍鑑別診断の有用性を検討する疫学研究
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科脳神経外科学 教授 栗栖 薫
研究期間	2018年2月26日(倫理委員会承認後)～ 2019年3月31日
対象者	2004年8月1日から2009年8月31日までに、広島大学病院にて転移性脳腫瘍、膠芽腫、中枢神経原発悪性リンパ腫と診断され、造影CTで灌流画像検査を施行されている患者さんを対象とします。
意義・目的	<p>MR検査は組織コントラストに優れるため、脳の病気の診断にはMR検査を用いることが多いですが、鑑別診断が難しいことがあります。また、MR造影剤のガドリニウムの副作用、腎機能障害患者での使用リスクの問題、体内金属による検査制限やアーチファクトの問題などもあり、すべての患者にMR検査を行えるわけではありません。</p> <p>MR以外で術前検査として行われることが多いCTでは、造影剤を用いた灌流画像を用いることで、腫瘍の質的診断に関する情報を得ることができます。MRが行えない場合や、MR造影剤が使用できない場合に有効な代替検査法と考えられています。</p> <p>本研究では、このCT灌流画像を用いて、各疾患の診断を正確に行う方法を開発します。この検査法は多くの施設で再現可能なため、診断法確立の意義は極めて高いものになります。</p>
方法	<p>本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。</p> <p>カルテから転記する内容は年齢、性別、病気の診断、CT灌流画像のパラメーターの血液量、血流量、造影剤の平均通過時間、造影剤の血管透過性です。疾患ごとのCT灌流画像のパラメーターを解析し、鑑別診断法の確立を目指します。</p> <p>（個人が特定出来る情報は転記しません）</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 栗栖薫
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5481 広島大学病院脳神経外科 講師 山崎 文之